

事前復興まちづくりに関するアンケート（関係団体等向け） 結果

1. 調査の実施概要

- 調査期間：令和7年12月～令和8年1月（依頼先により異なる）
- 調査対象：町会・自治会、いきいきクラブ（※1）、杉並区障害者団体連合会構成団体（※2）、区立小中学校児童・生徒の保護者、区内商店会、東京商工会議所杉並支部会員
- 調査方法：調査票の郵送、手渡しまたはメール等による依頼／回答は郵送またはWebによる回答
- 回収状況：有効回収数160件（郵送86件・Web74件）

（※1）いきいきクラブ…生きがいを高めるためにさまざまな活動を行う、おおむね60歳以上の区民による自主的な団体。

（※2）杉並区障害者団体連合会構成団体は、他の調査対象と比べて団体数が少ないため、団体単位による回答に加え、会員個人からの回答も受け付けています。

2. 報告書の見方

- ・nはその設問の回答者数を表しています。（個別に記載がない設問はn=160）
- ・回答結果は百分率で算出し、小数第2位を四捨五入してあります。このため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ・自由記述形式の回答の一部については、内容の趣旨を損なわない範囲で、誤字脱字の訂正や表現の明確化のための最小限の加筆修正等を行っています。

3. 回答者の属性

依頼先団体等	回答数（件）
町会・自治会	71
いきいきクラブ	34
杉並区障害者団体連合会構成団体（※）	27
区立小中学校児童・生徒の保護者	13
区内商店会	10
東京商工会議所杉並支部会員	5
合計	160

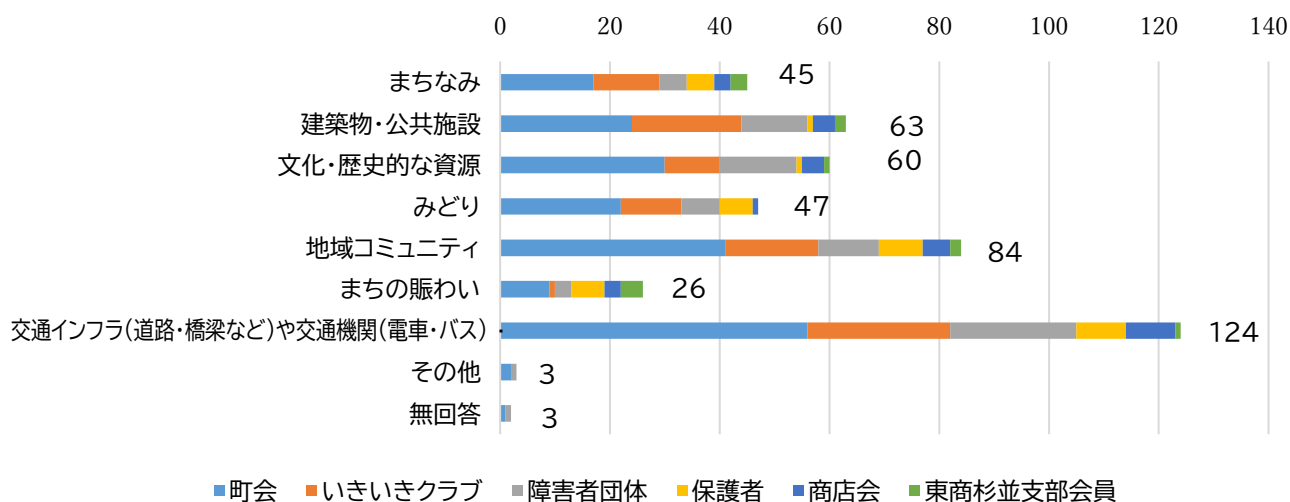
（※）「杉並区障害者団体連合会構成団体」による回答には、各団体会員個人からの回答を含みます。

以下、「町会・自治会」を「町会」、「杉並区障害者団体連合会構成団体」を「障害者団体」、「区立小中学校児童・生徒の保護者」を「保護者」、「区内商店会」を「商店会」、「東京商工会議所杉並支部会員」を「東商杉並支部会員」といいます。

4. 各団体等共通設問【選択式】（問1、問3、問5）

問1. 復興後のまちにおいて、残したいもの、充実して欲しいものを教えてください。（最大3つ選択可）

回答者数	(n=71)	(n=34)	(n=27)	(n=13)	(n=10)	(n=5)	(件)
選択肢	町会	いきいきクラブ	障害者団体	保護者	商店会	東商杉並支部会員	合計
まちなみ	17	12	5	5	3	3	45
建築物・公共施設	24	20	12	1	4	2	63
文化・歴史的な資源	30	10	14	1	4	1	60
みどり	22	11	7	6	1	0	47
地域コミュニティ	41	17	11	8	5	2	84
まちの賑わい	9	1	3	6	3	4	26
交通インフラ(道路・橋梁など)や交通機関(電車・バス)	56	26	23	9	9	1	124
その他	2	0	1	0	0	0	3
無回答	1	0	1	0	0	0	2

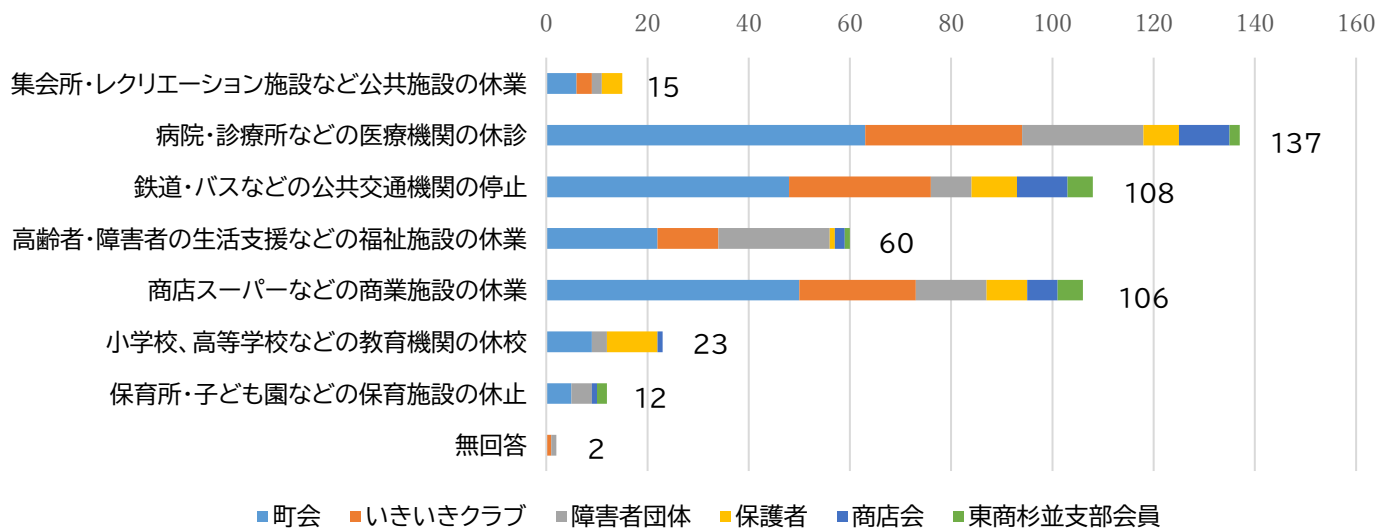


【回答の分析】

- 「交通インフラや交通機関」は、全ての団体等から多くの回答が得られた。全回答者のうち約8割が選択した。
- 一般区民向けアンケート（R7.7実施）の類似設問において、比較的回答が少なかった「地域コミュニティ」が、各団体等から多くの回答を得て、第2位となった。
- 同様に、一般区民向けアンケートの類似設問において比較的回答の少なかった「文化・歴史的資源」にも多くの回答があり、まちの構成要素のうち形を持たないものも重視する傾向が見られた。

問3. 震災後は、様々なサービスや店舗、事業が停止し、再開までに時間を要します。つぎの中で、あなたの暮らしの回復に特に支障があると感じるものを教えてください。(最大3つ選択可)

選択肢	回答者数						総合計
	(n=71)	(n=34)	(n=27)	(n=13)	(n=10)	(n=5)	
	町会	いきいきクラブ	障害者団体	保護者	商店会	東商杉並支部会員	(件)
集会所・レクリエーション施設など公共施設の休業	6	3	2	4	0	0	15
病院・診療所などの医療機関の休診	63	31	24	7	10	2	137
鉄道・バスなどの公共交通機関の停止	48	28	8	9	10	5	108
高齢者・障害者の生活支援などの福祉施設の休業	22	12	22	1	2	1	60
商店スーパーなどの商業施設の休業	50	23	14	8	6	5	106
小学校、高等学校などの教育機関の休校	9	0	3	10	1	0	23
保育所・子ども園などの保育施設の休止	5	0	4	0	1	2	12
無回答	0	1	1	0	0	0	2

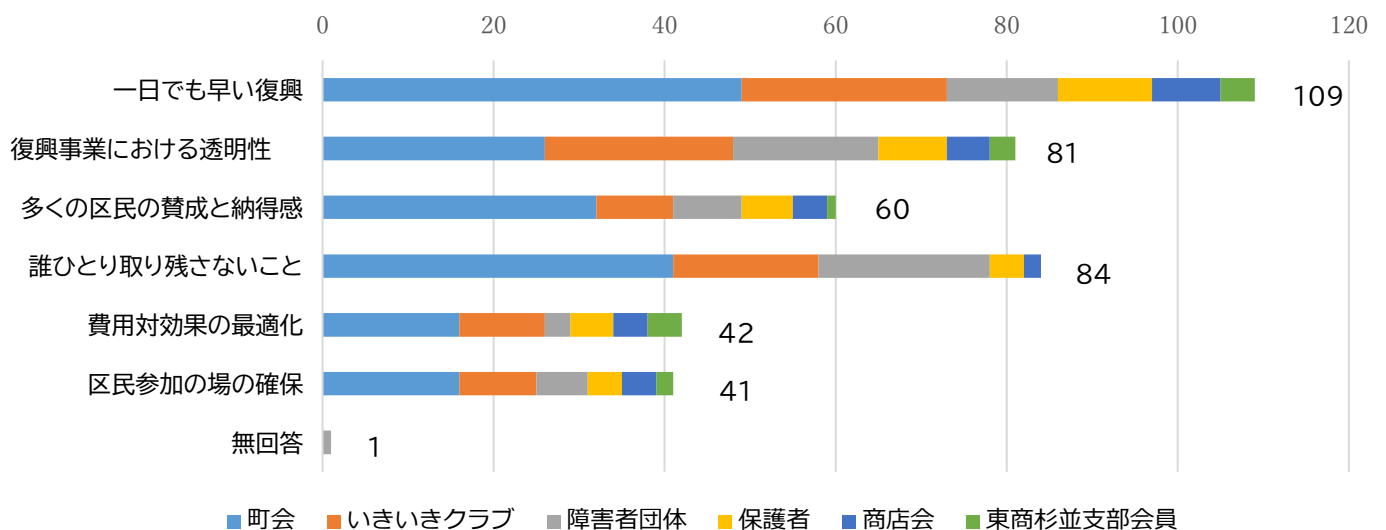


【回答の分析】

- 上位3件は「医療機関」「交通機関」「商業施設」となった。この3つは、一般区民向けアンケートの上位3件と共通するが、順位が異なる結果となった。
- 「医療機関」がどの団体等からも多くの回答を得て、2位と差をつけて1位となった。回答者の暮らしの回復期における医療体制への不安が読み取れる。

問 5. 復興の進め方において、あなたが大切だと思うことを教えてください。(最大3つ選択可)

選択肢	回答者数						(件)
	(n=71)	(n=34)	(n=27)	(n=13)	(n=10)	(n=5)	
	町会	いきいきクラブ	障害者団体	保護者	商店会	東商杉並支部会員	総合計
一日でも早い復興	49	24	13	11	8	4	109
復興事業における透明性	26	22	17	8	5	3	81
多くの区民の賛成と納得感	32	9	8	6	4	1	60
誰ひとり取り残さないこと	41	17	20	4	2	0	84
費用対効果の最適化	16	10	3	5	4	4	42
区民参加の場の確保	16	9	6	4	4	2	41
無回答	0	0	1	0	0	0	1



【回答の分析】

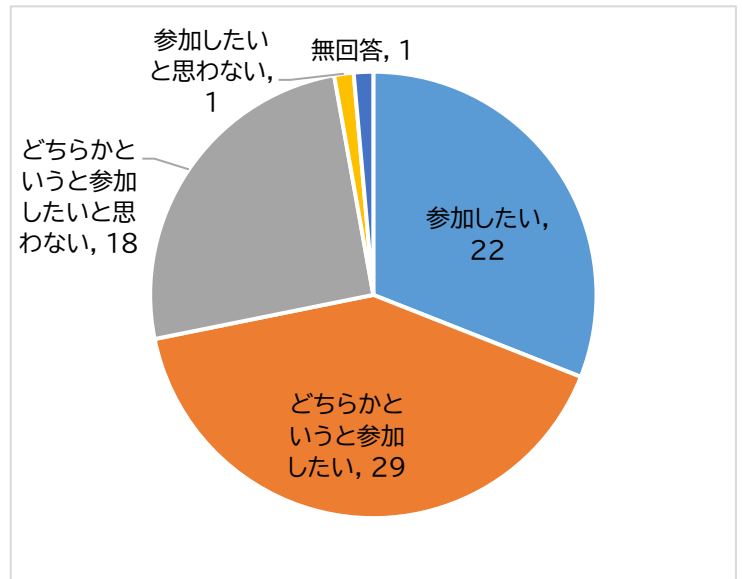
- 「一日でも早い復興」が、第1位となったのは、一般区民向けアンケートと同様。
- 「誰ひとり取り残さないこと」が、町会、いきいきクラブ、障害者団体を中心に多くの回答を集めて第2位となった。その一方で、「費用対効果の最適化」には比較的回答が集まらず、順位を落とした。この点が区民向けアンケートとは大きく異なる結果となった。
- 一日でも早い復興を基本としつつも、誰ひとり取り残すことなく、透明性を確保しながら復興を進めて欲しい、という要望が今回の結果からは読み取れる。

5. 各団体等への個別の設問

① 町会・自治会 (n=71)

問 7-1. 震災の前に、復興のことを地域の仲間や行政と考える集まりがあれば、参加したいですか。(1つ選択)

選択肢	回答数	割合
参加したい	22	31.0%
どちらかというに参加したい	29	40.8%
どちらかというに参加したいと思わない	18	25.4%
参加したいと思わない	1	1.4%
無回答	1	1.4%
合計	71	100.0%



【回答の考察】

回答の約7割が「参加したい」または「どちらかというに参加したい」としており、多くの町会が事前復興に関する取組に対して前向きな姿勢を示していることが確認された。

また、この結果は、町会が地域主体の事前復興を推進していく上で、重要な担い手となり得ることを示唆している。

問 7-2. 問7で「参加したい」・「どちらかというに参加したい」を選択した方へ質問です。どのようなことを話したいか、具体的な希望がありましたら、教えてください。(任意回答・自由記述)

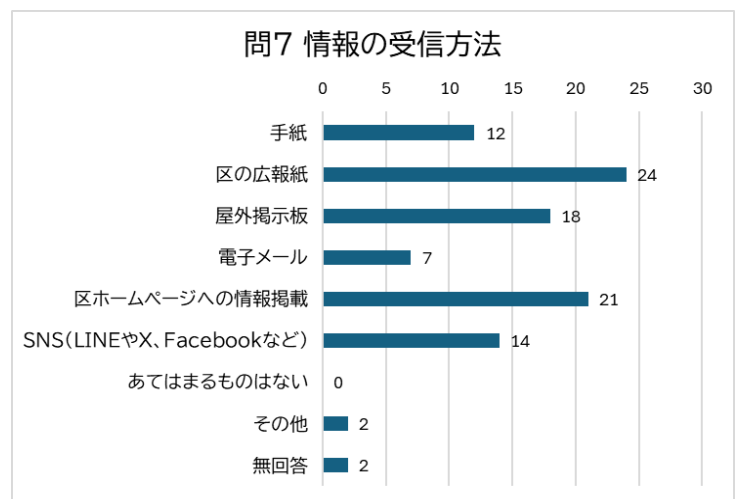
回答内容
そもそも復興とは何かの共通認識を共有すること。
インフラ整備計画
町会役員の立場としては町内にお住まいの皆様へ どの様な街づくりを望んでいるかのリサーチなど色々な意見を吸い上げたい
事前復興で決議した事項は、震災後は、行政で進められるコンセンサス。(震災後に、住民協議している時間はない。早期復旧すべき。)
行政だけの人的対応には限界があり、自分自身での対応を考えなければならないと思うが…？ 被害地域外の友人、知人等
具体的な計画(案)が出来たら、100~200名程度の集会ができる場所で区民の参加応募を募る。
曜日によって！！時間が取れないので！！
復興のタイムスケジュールについて。
どんな街にするか
実際に災害にあった方、復興に携わった方の話を聞きたい。
街の現状を認識した上で、復興に合わせて公園や公共施設、商店街、道路などの近代化と改善を併せて行える様に検討会を重ねることが必要と思います。
家族との事、準備はしているかなど・・・
インフラの(復興・回復)スピードについて話したい。特に電気！
住民共助の大切さと具体策

地域主導で進めて欲しい。区民のための行政。区行政のための区民ではない。
近所の方々の家族構成や災害時に必要とする手助けなど、プライベートな事なので話題にするのは難しいかも
理由はありませんが、他の方々はどのような考えを持っているか聞いてみたい。
震災救援所訓練に活かしたら一般の住民を参加させられるか
避難、火災対策、
具体的な、復興政策
まずこれまでの被災地の方たちの体験談を聞きたい
通常の生活に戻るような様々な生活支援策（お金を含め）の検討。
どこにトイレ、どこに食料品、どこで寝られるか、どこが安全か
震災はいつ起きるかわからないもので、もし起きたらどれだけの人が被災にあうかわからない状況の中で現在震災救援所と使える施設には限りがあると思われます。区でも自宅避難を推奨していますが、その場合どのように自宅避難者を把握しようとしているのか？また個人情報保護法の関係上地域住民を把握できない状況では安否確認がスムーズにできないと思います。その為にもどのように安否確認を進めていくのか教えてほしい。
まずは、何でもありから
参加者同士のコミュニケーションが必要ではないか。
道路や公共施設の整備方針、医療・福祉機能の維持、地域コミュニティの連携体制づくりなど、平時から備えておくべき対策について意見交換を希望します。行政と住民が互いの立場を理解し、情報を共有しながら、現実的で実効性のある復興計画を共に考える場になることを期待します。
どのような被害に遭った人に、どのような支援を行うべきかを具体的に明確し、公・共・私の役割を設定する

② いきいきクラブ (n=34)

問7. まちの復興を進めるうえで、住民の皆さんと話し合いを重ねるためには、行政からの分かりやすくきめ細やかな情報発信が大切です。どのような方法なら、情報を受け取ることができますか。（当てはまるものをすべて選択）

選択肢	回答数	割合
手紙	12	35.3%
区の広報紙	24	70.6%
屋外掲示板	18	52.9%
電子メール	7	20.6%
区ホームページへの情報掲載	21	61.8%
SNS(LINEやX、Facebookなど)	14	41.2%
当てはまるものはない	0	0.0%
その他	2	5.9%
無回答	2	5.9%



【回答の考察】

広報紙や屋外掲示板といったアナログな手段に加え、区ホームページへの掲載や SNS を活用したデジタルな情報発信についても多くの回答が寄せられた。

これらの結果から、高齢者層に対しても、アナログ媒体と並行してデジタル媒体による情報提供を行うことが有効であると読み取れる。

③ 杉並区障害者団体連合会構成団体 (n=27)

問7. 自分や障害がある仲間が(または、自分が支援している方が)、震災後も杉並のまちで暮らしていくために、まちの復興に期待することがありましたら、教えてください。(任意回答・自由記述)

回答内容
皆が最低限の暮らしができること 取り残される人がないように
地域にある様々なコミュニティを大切にしてください。
日ごろから、住み続けたいと思う街であること
「震災になってからどうこうする」というよりも、平時の時から(今から)“弱い人・高齢者・障害のある人々”への偏見・差別を少なくする。リテラシーを重要視することが大事だと思います。
夢の様な街作りはしないで欲しい。荻窪駅南北口通用路、改札口階段の大混乱の日々は専門家による青写真作りの良いケースです。平常時の現状、災害発生時はどうなってしまうのでしょうか。老人・妊婦が「邪魔だ!どけ!」と怒鳴られているのを目撃しています。
公共施設建築の折には、高齢者施設や障害者施設、保育園の併設をお願いしたいです。大人から子供まで、障害のある無しに関わらず、同じ建物で過ごし暮らし、交流のある時間を持ちながら、生活していきたいです。
福祉関係のサービス提供者(事業者)への支援については、健常者社会と共に、取り残される事無く出来る限り速やかにお願ひしたいと思います。
なるべく現状復帰の早さ。
なるべく早くいつも通りにしてほしいです
障害は目に見えるものだけではないので、相手のことを理解しようとする意識を、頭の固い大人がもっと柔らかくなるよう、人ごとにしないう、普段から、障害のことに関わってほしい。
障害者に対するおもいやり
差別をしない。ちょっとした手伝い、心使い。

【回答の考察】

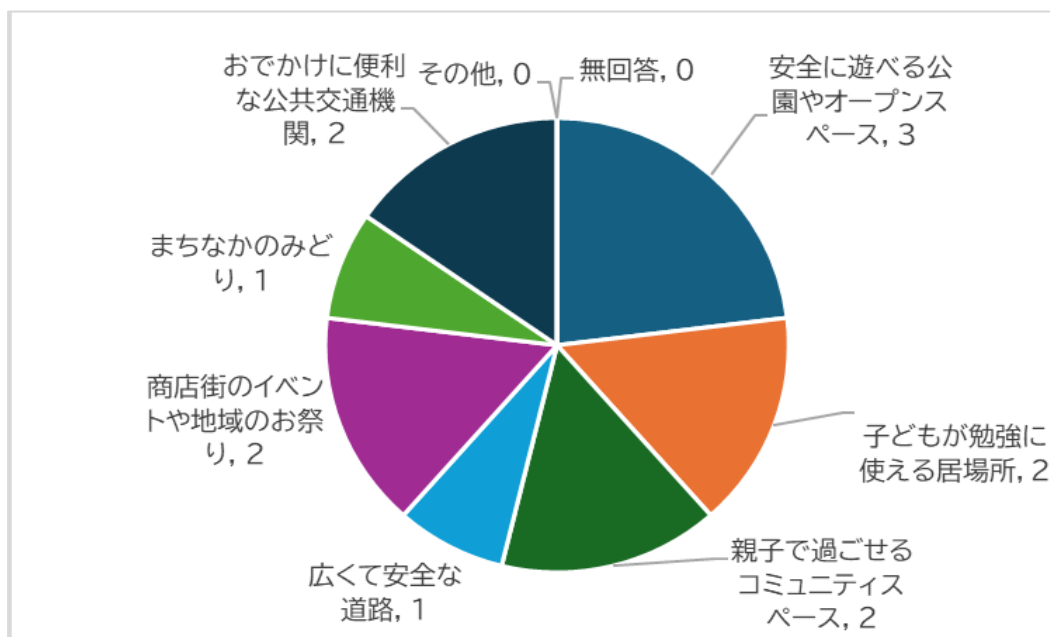
災害時に誰一人取り残されない復興を望む声に加え、平時から偏見をなくす取組を進めてほしいという意見が多く寄せられた。

これらの意見からは、ハード面の検討による事前復興だけでなく、相互理解を深めるソフト面の事前復興を併せて推進してほしいという期待が読み取れる。

④ 区立小中学校児童・生徒の保護者 (n=13)

問7. 復興後も、子どもたちと皆さんが安心して杉並のまちで暮らしていくために、生活や子育てに欠かせないと思うものを教えてください。(いずれか1つ選択)

選択肢	回答数	割合
安全に遊べる公園やオープンスペース	3	23.1%
子どもが勉強に使える居場所	2	15.4%
親子で過ごせるコミュニティスペース	2	15.4%
広くて安全な道路	1	7.7%
商店街のイベントや地域のお祭り	2	15.4%
まちなかのみどり	1	7.7%
おでかけに便利な公共交通機関	2	15.4%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	13	100.0%



【回答の考察】

回答が各項目に分散する結果となった。本設問の回答者は小学生から中学生の子どもを持つ保護者であり、いずれの項目も一定の重要性があると考えられる。

また、子どもの成長段階に応じて、必要となる施設や環境も変化していくことが想定され、そのことが回答が分散した背景にあると考えられる。これらを踏まえると、子育て世帯は復興後のまちや整備される施設に対して、多様な環境や幅広い機能を求めていることが読み取れる。

⑤ 区内商店会 (n=10)

問7. 震災後も商店街の多くの店舗が事業を継続して、まちのにぎわいを維持するために、まちの復興に期待することがありましたら、教えてください。(任意回答・自由記述)

回答内容

商店街は復興のシンボルとなるので一番に復興したい。そのため火災等で全滅しては大変時間がかかるので、火災での焼失は絶対避けたい。そのため普段から防火の備えに気を付ける。当商店街では、今年、防火に力を入れてゆく。①地域の消防署出張所と連携。指導をお願いする、②感震ブレーカーの全店設置、③防火対策の実施や知識の勉強

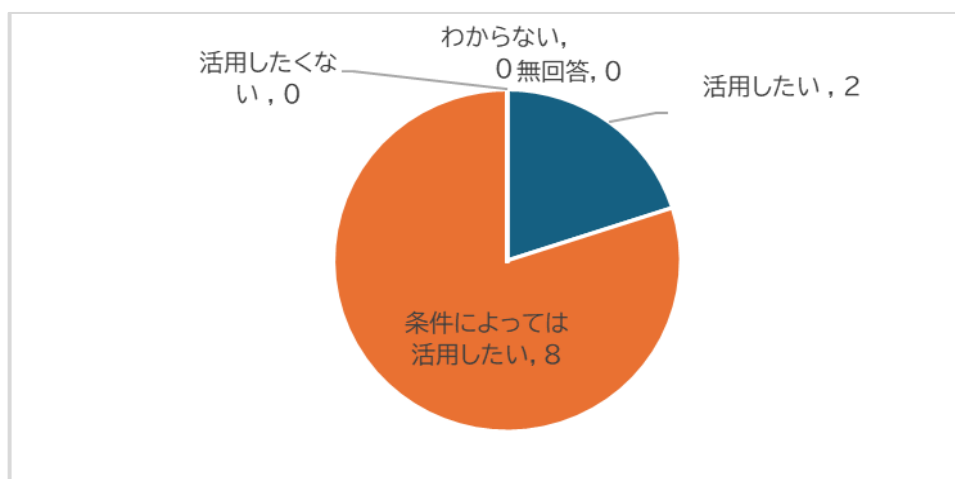
早いライフラインの復旧

復興助成金のようなもの。

防災にも強い商店街にできたらと思う ハードでもソフトでも、連携することが大切

問8. 復興には長い時間がかかることがあります。その間、地域の暮らしを支える場として、仮設の住宅・店舗・事業所や利用可能な建物等を利用した仮設の市街地(時限的市街地)を整備することがあります。あなたの携わる店舗・商店街にも甚大な被害があった場合、店舗や商店街の事業継続のために、この「時限的市街地」を活用したいと考えますか。活用希望について教えてください。(1つ選択)

選択肢	回答数	割合
活用したい	2	20.0%
条件によっては活用したい	8	80.0%
活用したくない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	10	100.0%



【回答の考察】

すべての回答者が時限的市街地について「活用したい」または「条件によっては活用したい」と回答しており、商店会が時限的市街地の活用に非常に高い関心を有していることが分かった。

実際の復興の局面においては、関係者との丁寧な条件調整や十分な説明が不可欠となるものの、時限的市街地が商店街の復興に向けた有効な手段となり得ることが確認できた。

⑥ 東京商工会議所杉並支部 会員 (n=5)

問7. 震災後も商店街の多くの店舗が事業を継続して、まちのにぎわいを維持するために、まちの復興に期待することがありましたら、教えてください。(任意回答・自由記述)

回答内容

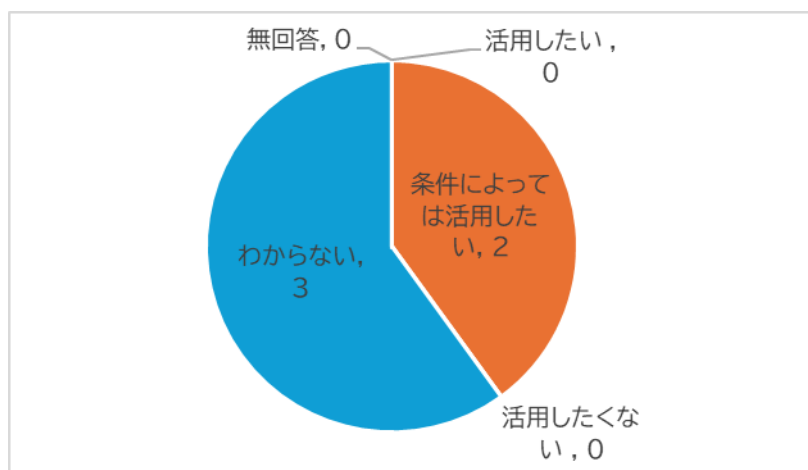
避難所が足りていないと思います。避難所を増やしてほしい。若杉小学校の跡地は防災公園にしてほしい。

道路が広くて、歩行者にも安全な町になると良いと思います。

燃えにくい町になると、今後も安心です。

問8. 復興には長い時間がかかることがあります。その間、地域の暮らしを支える場として、仮設の住宅・店舗・事業所や利用可能な建物等を利用した仮設の市街地（時限的市街地）を整備することがあります。あなたの携わる店舗・商店街にも甚大な被害があった場合、店舗や商店街の事業継続のために、この「時限的市街地」を活用したいと考えますか。活用希望について教えてください。(1つ選択)

選択肢	回答数	割合
活用したい	0	0.0%
条件によっては活用したい	2	40.0%
活用したくない	0	0.0%
わからない	3	60.0%
無回答	0	0.0%
合計	5	100.0%



【回答の考察】

商店会の回答とは異なり、時限的市街地を「条件によっては活用したい」という回答が一定数あったものの、過半数は「わからない」と回答した。

こうした結果の背景には、本設問の回答者が多様な業態で構成されており、被災後の状況や仮設事業所において事業継続が可能かどうか判断しにくい業種が含まれていることが影響していると考えられる。

一方で、一定の条件が整えば時限的市街地の活用が可能となる余地も残されており、地域の復興に寄与する手段となり得ることが示唆された。

5. 各団体等共通設問【自由記述】（問2、問4、問6、問8／9）

問2. 復興後のまちは、どのようなまちであってほしいか、復興後のまちの姿について具体的な希望がありましたら教えてください。（任意回答・自由記述）

回答者属性	回答内容
町会	復興後のまちも、現在と同様に活気に満ちた緑豊かで静かで落ち着いたまちであってほしい。それには、震災時に火災を発生させない、大きくしないための教育活動・対策が常に行われるよう、また、発生した時の初期消火等の対応がすぐにとれるような対策や教育が必要と考える。一案として常に身近で地域にいる若者に活躍してもらえ教育等を行うこと（現在の中学生レスキューの充実）も一つの対策となる。
町会	余裕のある道路幅の確保（車道+自転車帯+歩道）
町会	狭隘道路や行き止まりの道路の解消。私道の買い上げ。青梅街道、環状7号、8号などの拡幅と自転車、歩道の整備。
町会	住民が日常生活を普通に送れる街であること。
町会	区画整理された街路
町会	区画整理された安全な町
町会	狭隘道路の改善、防災減災対応建築への移行推進、公共移動手段の多様化、緑地や公園の拡充と均等配置(避難場所等にも関係する為)
町会	もちろん慣れ親しんだ街に戻して欲しいという思いはあるが、未来への街づくり、震災に強い地域で助け合うコミュニティのある街に変えていく事が不可欠だと考えます。
町会	・住みやすい街。安心できる街。・やすらぎのできる公園。子供が遊び、スポーツも楽しめる公園。・住民が気楽に集うことのできる集会所。・駅前商店街の整備。（建物を含めて整備。）
町会	密集地の延焼防止の為に道路の拡幅等々と併せて都市計画の遂行。道路両側の建築基準法の耐震化、防火帯等の高度制限等の整備。繰返される災害を予想しての長期的展望による計画策定。
町会	・住みやすい街（きちんと4m以上の道路整備がなされて、歩行者が安心して歩ける道路）・子供が遊べる、年寄がくつろげる公園施設を地域毎に整備・緑豊かな町並
町会	安心・安全。元の人達が戻って、ちゃんと生活ができる町&街づくりを！！
町会	元の姿とはいかなくても、出来るだけ現状に近いまちの姿に戻すようにして欲しい。
町会	歩いてみたい街にしたい。
町会	多くの方が転居を余儀なくされ、コミュニティは新しい形になると推察します。せめて思い出として心のよりどころとされる文化歴史的資源を残せればと思います。
町会	住人の拠り所となる役所やその出張所はしっかり立て直して欲しいです。また、危険のないように安心して外出できるように、交通インフラ(道路の整備)を整えて欲しいです。
町会	道路整備、出来るだけ拡幅する。どうしても広げにくければ、所々に退避場所を作る。耐火基準の引き上げ。建ぺい率の制限。緑地帯の確保。
町会	震災を乗り越えて地域の人々が安心して住み、明るいコミュニティが続くまちであって欲しいと思います。
町会	当町会では、消火栓の前で10人程度の参加を募り、防火スタンドパイプを何回か開催。隣近所の顔合わせや、町会員のお互いの協力が出来るまち。
町会	平和な暮らしを、皆が安心できる様な街づくりにしたいです
町会	・町会、自治会活動が行われている地域は住民とのつながりもあり、住み良い街となっています。・マンションなどが増えるばかりで、ますます近所とのふれあいがなくなると思いますので、地域参加型のイベントなど増やして欲しい
町会	隣近所のがつながりが継続できる町、災害に強い町
町会	東京杉並は過疎地ではなく、東京新宿のような密集地でもない。復興後の町も、現行と大差なくて良いと思う。むしろ、無理矢理机上のプランニングで強行することこそ「愚」ではないか？被災の程度に合わせ、困っている人を優先して個別に対応して欲しい。
町会	杉並区が先ず施政区域と主な施設などの町の骨格を決めたら、身近な生活道路の確保と商店街の整備を考え、住民たちの意見を集約してくれる専門家の存在が必要と思います
町会	公園を中心にした閑静な住宅街であって欲しいので、戸建住宅としては30坪の敷地で明るく住みやすい街にしたい
町会	出来る限り現状の維持を希望
町会	無電柱化、公共施設を一本化。特に病院、高齢者、幼児、弱者等を同じ施設で運用。(消防・警察) 学校小中高 定時(夜間) 短大も同様にする。
町会	安心で安全な町
町会	緊急自動車を通れる道路の整備の上の街作り

町会	火事に強いまち、水道は最低限強化、となり近所の強いつながり
町会	区画の整理された町
町会	居住の阿佐谷、高円寺地区は、都の震災危険度が4～5と悪い！少しでも軽減する為の都市基盤が整備された街の姿。道路・広場・緑地等が、計画的にネットワークされる事。今からでも！
町会	災害に強いまちづくり。
町会	誰もが立ち寄れて情報共有できる施設がたくさんあってほしい
町会	隣近所が復興へのプロセスでつながりが出来、次に何があってもお互いに協力し合えるまちになってほしい。
町会	町のオープンスペースである比較的大きな公園や畑があり、電線の地中化がされた町。
町会	昔からの街並みをあまり変えてほしくない
町会	公共施設をすぐ作り、トイレなどを使用できたりしてほしい
町会	元通りであってほしい
町会	町会・自治会を通して隣同士顔が見える街を作してほしい。
町会	人口減(少子高齢化)に向けて、過大な道路幅、通過車両を抑えてのまちづくり
町会	地域のコミュニティが豊かで、皆で仲良く暮らせるまち作りを進めてほしいと思っています
町会	従来住んでいた人たちが、そのまま住み続けられるようになってほしいものです
町会	災害に強い街。
町会	復興後のまちは、誰もが安心して暮らせる安全で快適な生活環境を備えたまちであってほしいと考えます。まず、老朽化した街並みや危険な擁壁の解消、緊急車両が通行できない狭隘道路・行き止まり道路の改善など、防災・安全を重視した都市基盤の再整備を進めていただきたいと思います。また、防犯・防災に配慮した明るく見通しの良い道路整備も重要です。さらに、区界による公共施設の偏在を是正し、医療・福祉・子育て支援施設が身近に整った「歩いて暮らせるまち」の実現を望みます。あわせて、高齢者や障がいのある人を含め、すべての人にやさしいバリアフリー環境の整備を進めてほしいと考えます。加えて、商店街や地元産業の再生による賑わいのあるまちづくり、公園や緑地を活かした憩いのある景観づくりを期待します。地域コミュニティの活性化のため、町会単位で利用できる集会所の整備も必要です。住民の声を十分に反映しながら、将来にわたり安心して住み続けられるまちづくりを進めていただくことを強く希望します。
町会	地域のつながりがあって、冷たい建物ではなく、緑があふれているまちに
町会	木密地域は少しでも改善されれば、新しいまちの形成として意味があると思う
町会	・震災前の住民が全員、復興後にも住めるようにする。・震災前のコミュニティ活動が再現できるようにする。 ①ゴミ出しのグループが従前と同様となるように、②お祭りや町会等のイベントが従前と同様に出来るように、 ③子供・高齢者・障害者等の活動が従前同様に可能となるように
いきいき	木密の防止、緑の拡大、道路の整備(中杉通りの完全環状化)。無電柱化、駅周辺及び、遊歩道に休憩用ベンチの設置、暗渠になった旧河川(桃園川、井草川等)の親水公園化。
いきいき	単なる原状復旧ではなく、電柱の地中下や道路拡幅など、より耐力を増すまちづくりをしてほしい。
いきいき	お互いに支え合いが出来る関係、遠くの親戚より 近くの他人！ いち早く老人クラブを立ち上げ、仲間を作ります。自分が住んでいる 地域を元気にしたい！
いきいき	緑が多く、消防車が充分通れる道と、東西南北を行き来できる交通網。
いきいき	安心出来るまちづくりを希望します。ホッとする場所も希望。
いきいき	現状に戻れば良い、又、道幅にゆとりを作る、緑豊かにする
いきいき	安心して暮らせるまち、人と人がコミュニケーションをしっかりとれるまち。区民住宅をもっと増やして欲しい。
いきいき	交通インフラが整い、みどり豊かな街であってほしい
いきいき	木造住宅：特に3階建ての木造住宅は禁止すべき。公園を作る、図書館など公共施設の拡充
いきいき	以前と同様
いきいき	1. 道幅の広いこと、2. 落ち着いた色の建物の街であってほしい
いきいき	バリアフリーで高齢者も幼児も若い人も、皆が住みやすい、緑の多い、病院、買物に便利な町づくりをお願いいたします
いきいき	友愛に満ちた地域コミュニティの確立
いきいき	・人間関係を温かくする地域コミュニティ ・お互いに支え合いできる人間関係 ・インフラの整備
いきいき	ゴミゴミしない、スッキリした町
いきいき	・木密地域などの道路を広くする。緑の空地を設けるなどして災害(特に火災)に強いまちへ ・子どもから高齢者まで集える施設を設置
いきいき	町のコミュニティが一番である。
いきいき	前と同じとはいえないと思いますが、なるべく復興後も同じに近い町であってほしい
いきいき	みどり多い、少しゆとりのある街並が望みです
いきいき	コミュニケーションがとれる場所の確保

いきいき	(1) 車と人との区分をしっかりとさせる、(2) 空家をなくすか、手入れをする方法検討
いきいき	出来るだけ復興前の状態にする事
いきいき	地域のコミュニティが豊かで、皆で仲良く暮らせるまちづくりを進めてほしいと思います
いきいき	文化的な資源を保護・保存し、住民との話し合いの上、新しい住みやすい区画の上に街づくりを行う
障害者団体	例えば電柱は地中に歩道は広く、車椅子でも子ども、高齢者、障害のある人とも手をつないで歩きやすい街になってほしいです。
障害者団体	・平凡な生活が保障される地域、・人がやさしくなれる雰囲気あふれる街なみ、モダンとかデラックスとか近代的とかを求めるのではない。日々の生活、営みが豊かになれる物や建物が杉並のあちこちに！
障害者団体	破壊されてしまった住居に対する固定資産税。住民に対する都区民税は継続して引き落とされ続けるのでしょうか。復旧再建のためには、資金が必要なのですが！！
障害者団体	争いの無い、弱者に優しいまち。
障害者団体	障害者、高齢者にあらゆる事が届く社会であって欲しい。
障害者団体	老若男女、障害の有無、国籍などにかかわらず、区民にとって住みやすい（バリアフリー）まちにしたい。
障害者団体	いつも通りの生活が戻るようにしてほしい
障害者団体	人々が自主的に助け合い、責め心がないコミュニティができていくこと。
障害者団体	元通りとはいかないまでも人間らしい生活が営まれるまち→次の災害に対して対応（強い）できる町並
障害者団体	なるべく元の生活に近い環境にもどることを希望します。私には障害のある子どもがいるので、仲間とのつながりが必要になると思います。精神的に落ち着くためにも、仲間とのつながりが重要です。
障害者団体	特に相談ごとを受け止めてもらう公共施設（と人）の復興が、早々に以前と同じような形で復興してほしい
保護者	緑多めだけど建物もある感じ
保護者	今と変わらない街並み 子供達が安心して遊べる街
保護者	寂しい街並みではなく、賑わいが戻るような街並みを希望します
保護者	悲しみを繰り返さない、燃えにくい街。もし被害があっても、逃げやすい街。地震を抜きにしても、緊急車両が入りにくい道は怖いです。
商店会	復興後のまちが災害前より良くなったというよりは、元の姿に戻ったと言われたい。ただし、道路や幅員は4m以上を確保したい。各地域に小規模な広場をたくさん作る。
商店会	災害に強いまちづくり
商店会	防災に強いまち
商店会	お祭りやイベントができて、賑わうとうれしい
東商杉並支部会員	地域の皆さんが、元気に暮らせるのが一番だと思います
東商杉並支部会員	車を使いますが、周りの道には狭いところも多く、広くなると良いと思います

問4. 問3で回答いただいたもののほか、災害からの回復・復興にあたり、特に懸念していることがありましたら教えてください。(任意回答・自由記述)



【再掲・参考】

問3. 震災後は、様々なサービスや店舗、事業が停止し、再開までに時間を要します。つぎの中で、あなたの暮らしの回復に特に支障があると感じるものを教えてください。(最大3つ選択可)

回答者属性	回答内容
町会	震災後の混乱で、速やかに被害者の特定ができず、時間ばかりが経っていくこと。さらにそれにより失われる命や健康被害が増えること。
町会	道路網の整理
町会	ライフラインの復旧期間がどの程度に収まるのか
町会	電気ガス水道等の復旧具合 育児や児童教育施設の早期復旧 生活必需品の安定的供給体制
町会	学校へ行けない子供達や高齢者といった方々への助け方 普段からのシミュレーションが必要と考えます
町会	・電気、水道、ガスのインフラの早期復旧。とくに下水道は懸念大きい。 ・復興資金の個人への補助、助成。 ・地域から出てくる廃棄物の処理。
町会	被災者自身が持っている技術技能等の民間活力を行政協力依頼の方向性の検討、近隣自治体との連携
町会	・インフラ復旧に時間がかかるのではないかと。 ・土地の確保 ・住民の同意
町会	地下鉄や幹線道路の復旧
町会	行政サービスの停滞。
町会	上下水道の回復がどうなるかが、最も懸念している事柄です。
町会	問3は選択出来ない。その時の家庭状況により、必要とされるものは違って来る。どれも同時に必要とされる。従って、第一に「命」に関するものが優先されるだろう。
町会	一人暮らしの高齢者が人的な繋がりを失い、精神的に悩み病気になることが心配です。
町会	高齢世帯やひとり暮らしの老人
町会	震災救助所がスムーズに（適切に）機能出来るのか
町会	震災後は、病院・診療所が必要の為、是非開業してほしいです
町会	集会所、高齢者の施設などが使用不可になりますと、お友達に逢えなかったり、精神的にダメージを受ける高齢者が増えると思います
町会	電気・上下水道のインフラの回復が最優先されるべき。逆に言えば、インフラが停止しない「まちづくり」をすべき。
町会	子どもたちの学びが止まらないようにしたい
町会	震災発生時に起こるであろう、大規模な住宅火災からの復興
町会	特に公園の少ない地域はみどり化を進める。
町会	診察・薬の入手
町会	医療機関並びに薬
町会	毎日飲む薬の入手
町会	何よりも電気・ガス・水道・下水道等の供給停止は生命にかかわる。ライフラインの確保が最優先（どの先行事例も教えている）
町会	電気、上下水道、ガス、通信などのインフラの復旧、建物のインフラ回復
町会	ライフラインの復旧
町会	住まいを失った場合の対処の仕方
町会	東日本大震災の時、知りあいが医療チームとして2～3ヶ月間現地に入りましたが、お薬に関しては1人1日分の配給しかなかったそうです。高齢者は継続して飲む薬が大量にある人が多いため、診療所は早くに再開してほしいです。
町会	電気・ガス・水道といった供給ラインの早期復旧。
町会	水・食品等必要な物
町会	商店スーパーが動いてくれたら幸いです
町会	スピードが必要だと思います

町会	杉並区では公立小学校・中学校が震災救援所となっていて、学校を再開するまで時間がかかりそうなので、公共施設、例えば図書館や区の集会所・敬老施設などを使用できるようにし、運営（誰が？）も準備しておくことも必要になると考えられます。
町会	仮設住宅
町会	治安の悪さが予想されるので、その事前対策を考えるべきと思う（公助・共助で）
町会	支援物資の配布や高齢者等の要支援者へのサポート。
町会	災害からの回復・復興にあたり、特に次の点を懸念しています。・住宅の損傷に対する修繕・再建費用の負担・雇用や収入の不安定化など、将来の生活見通しが立たなくなること・避難生活の長期化による健康悪化や生活の質の低下・子どもの学習環境や居場所の不足・住民の転出増加による地域力の低下・支援制度や復旧計画に関する情報不足・各種手続きの複雑化による住民の負担増 これらが長期化することで、生活再建や地域の回復が遅れることを強く心配しています。
町会	病院の休診
町会	ひとり住まいで生活に苦労している人への手助け
町会	建物を全壊・半壊等した住民の建物再建のための公的支援および建物修復までの仮設住宅の早期建設（特に住宅融資返済中の被災住民の支援方策の強化）
いきいき	かなり大きな地震があっても、自分の暮らしに支障はあまりないと判断している。私自身は、インターネットやスマホの利用のすばやい復旧を希望
いきいき	帰宅難民の防止、震災救援所の小学校を廃止、新たに施設を作る
いきいき	医療や介護に関わるサービスの中断があると困る。
いきいき	住宅が密集している地域の火災、車が入らない道路等、また コンビニやスーパーの早い復興等。
いきいき	高齢者福祉への支援
いきいき	高齢者は毎日薬を服用している方が多いので、病院・薬局などの休みは困ります。
いきいき	住居、インフラ
いきいき	火災が心配である。古い家屋の密集地域、消防車の入れない場所、検討しておく必要がある。
いきいき	ゆうゆう館のような高齢者の使用できる集会所が長期にわたり閉館すると、高齢者の生き甲斐が持てず孤立させてしまう
いきいき	下水道、便所の問題が大切。水（飲み物）、簡単な食物、最後に電気・ガス
いきいき	水道の停止
いきいき	住むところ
いきいき	買物や病院、そして衣食住をしっかりと確保してもらいたい
いきいき	犯罪の多発
いきいき	程度によりますが、住まいとか、普通の生活ができるか否か？心配。
いきいき	仮設住宅ができるのか？インフラの整備に時間がかからないで欲しい
いきいき	災害後の土地の収用など、個人の財産がどのように制限・保全等がされるのかの情報が知りたい
いきいき	断水、停電、食料
いきいき	町会や老人会の団結が不可欠
いきいき	ガス、水道が止まること。季節によって又違ってくると思う。
いきいき	現実として考えにくく答えが難しいです。しかし私達高齢者は震災には特に弱い立場です。自分で用意をおこたらず現実になった時スピーディーな対処を望みます。
いきいき	通信状況
いきいき	（１）地区の治安と防災、（２）ゴミ等の廃棄物の処理、（３）インフラ特にトイレ
障害者団体	障害のある家族の命、健康を守れるのか。また障害日中活動の再開。ヘルパーさんの支援がないと、家族が買い物に行くことも仕事に行くこともできません。特に民間の福祉関連事業所などは建物の修繕、人員確保が困難になるのではと心配です。
障害者団体	障害児、障がい者、老人などの弱者が後回しにされること
障害者団体	水道・ガス・電気の生命ラインの復旧が気になっています
障害者団体	福祉施設の中断のない運営を継続して下さい
障害者団体	障害のある子供の親達は、大きな災害があったら、一緒に死ぬしかないと言う人が多いです。避難所などで迷惑をかけるから。それは、回復・復興期であっても同じ気持ちなんだと思います。福祉分野の早急な回復を願います。
障害者団体	デマ情報はどうしても出てしまうと思うので、それに巻き込まれたりして情報弱者になること。
障害者団体	交通機関の復旧も気になります。
障害者団体	誰にとってもそうですが、特に障害のある家族、高齢の家族が必要な福祉、医療が受けられなくなったら困ります。

障害者団体	人との繋がりが無くなること。集まる場所、会える場所があれば、助け合いしやすい。
障害者団体	【住宅問題】東京都（杉並含む）の場合、仮設住宅の場所はあるのだろうか？公園の利用等の検討
障害者団体	高齢なので災害時から対応出来るかと心配です。それから大変なことだと思いますが、覚悟して向き合わなければと思っています。色々対策は講じておられる事と思いますが、今しなければならぬことはどんどん発信してください。
障害者団体	災害が起きた時の場所により、その後の行動も変わるとは思います。一緒にいられたらやはり水・食料の心配が一番でしょうか。
保護者	清掃工場や浄水場、電力会社とガス会社など
保護者	まずは衣食住、トイレ、生理用品などの必需品が不足しないか心配です。また、日常生活に早く戻れるかが心配です。
保護者	商店スーパー等の商業施設の休業
保護者	街の安全、子ども達や高齢の方が安心して健康に過ごせる事
保護者	被災した子供たちの遊び場。難しいかもしれませんが、大きな災害があっても、地域の子供たちが集まれる場所があると、きっと励みになるとは思います。
商店会	地元住民が被災や避難等でいなくなってしまうこと。復興を計画通り実施できる能力のあるリーダーがいるか。被災直後に必要な医療、通信、建築、土木、食料等の専門知識を持ったチームを作れるか。水、電気の確保。水は校庭、公園等にタンク（水槽、地下はだめ）の設置。電気は組立式の太陽光パネルの備蓄、蓄電池設置。
商店会	ライフラインの復旧は大前提で、医療も必要
商店会	ライフラインの復旧
商店会	火事が怖い。密集しているところもあるので。みなさん注意はしていますが。
東商杉並支部会員	事業継続はもちろんですが、保育施設の閉鎖が長引くと、子供のいる従業員の家庭が大変
東商杉並支部会員	従業員の生活回復

問6. 問5で選んだもの以外にも、復興の進め方において大切だと思うことがありましたら、教えてください。(任意回答・自由記述)



【再掲・参考】

問5. 復興の進め方において、あなたが大切だと思うことを教えてください。(最大3つ選択可)

回答者属性	回答内容
町会	私権は大切ではあるが、重視しすぎて中途半端な復興になったり、遅れたりするのは問題だと思います
町会	海外からも含めて、復興を口実に、便乗して利益を得ようとする不適切な団体や企業をきちんと見分けて、復興支援にあたるのが大切、
町会	復興後のありたい姿をマスタープランとして描き、それに沿って復興を取り進めること
町会	震災に強い未来への街づくり
町会	・復興を機会に、道路の整備（新設、拡幅、直線化）。必須事項。 ・土地の区画整理。
町会	衣・食・住の提供により、被害者自身の持つ自助努力支援
町会	・復興の計画集を事前に多くの区民に知らせる ・復旧施工業者が圧倒的に足りず、区民の内から元専門家を応募する ・被害の少なかった地域への移住の提案をする
町会	中心を決めて、意見をまとめて、行う。(住民で)
町会	優先度に添った復興。
町会	合理的にスピーディーに進めていただくことが、結果的により多くの方を救うのではないかと考えております。
町会	1日でも早く復興を進めるためには、全ての対策は難しいと思う。多くの方が必要と感じている病院や役所、介護施設、インフラ事業など、優先順序を決めてから、安全性を高めてはどうか。優先度を明白にしておくことが大切だと思う。
町会	発災後、日が経つに従って、必要とされるものが変わってくるはず。「事前」に考えておかなければならないのは、復興後の「町の形」だと思う。
町会	平常時から大震災後にどの様な街に作り直すか住民から意見を聞いてプランを幾つか策定することが大切と思います。
町会	公平・公正の実施
町会	生活に困らない様に早い復興にしてほしいです。(例)電気、ガス、水
町会	・日頃から復興の為に準備をしておく事 ・ご近所付き合いをする事
町会	問4と同じだが、インフラ回復が重要視されないのはなぜか？行政の怠慢ではないか？「大」工事、「大」建築をすることが復興の前提になっているのは間違っている。
町会	まちづくりの基本方針として第一に協働と住民参加が大事だと思います
町会	ライフラインの一日も早い復旧とひとり暮らしの高齢者のケア
町会	避難所の整備
町会	杉並の川を掘り下げる、又はかべ面を高くする。火災に強い町作りをする。
町会	復興時には多くの予算が投入されるが、その使い道の透明性を確保すること
町会	復興事業の優先順位の透明性
町会	確かに区行政と区民の協働は不可欠。しかし杉並区は区民に対し「こうしたいのだ」という具体的方策を発信していない。キックオフもいいが、自らの哲学を持たず「とにかく声を聞く」姿勢に当町会は疑問！
町会	法令遵守と安全性の確保
町会	将来への希望が持てるビジョン
町会	区、行政が主導して復興を進めるのですが、多くの区民の賛成は大切だと思います、利害関係は難しいと思います。
町会	土地をはじめとした、個人の財産の保全。
町会	住民の意見
町会	区民参加の場の確保
町会	住民の意見を尊重してほしい。役所の考えを押し付けないでください。
町会	地域住民から多くの意見を集め、何を行うことが最適か決めること 復興には時間がかかり必要となることから優先順位を考えながら復興に力を入れてほしい
町会	住民はパニックになり、エゴになりがちだと思う。それを鎮める対策が必要ではないか。
町会	ボランティアの活用、情報の開示、ニーズと供給のマッチング。

町会	復興は数字や建物の再建だけでなく、「人の気持ち」をどう救うかが重要だと考えます。復興の過程で、弱い立場の人に目が向いているか、後回しにされる人がいないかを常に意識することが大切です。また、心のケアや生活再建への丁寧な支援、地域コミュニティのつながりの維持も欠かせません。復興が進む中でも、一人ひとりの不安や困りごとに寄り添い、人を中心に据えた取り組みを続けることが、真に安心できるまちの再生につながると考えます。
町会	透明性
町会	復興の経験者からの体験談やアドバイスを聞きたい
町会	被災程度と復興方針の設定を前提条件として、どのような被害に合った人に、どのような支援を行うべきかを多様なケース分けを行い、ケース毎の対応策と必要支援物・事・費用を明確にする
いきいき	町内会等との連携も大切。何の準備もしてこなかった人も取り残さないということはどう考えるのか。ただし何の準備もできない人は取り残してはいけないと思う
いきいき	電気、ガス、水道の迅速の復旧
いきいき	区民の利害が対立する場面でも、何とか多くの区民の賛同を得て、復興を進めてほしい。
いきいき	普通の生活が早く出来るように、特に水やトイレ、食良品等
いきいき	至急に回復して欲しいのは、インフラ。特に電気、水の回復が急務！
いきいき	一人住まいの方が多くなっています（老若男女問わず）。そういう方に情報が届くように配慮してほしい。
いきいき	正しいのか、役に立つのかを常に考え、区民の声を広く聞く。そして今後ひとり暮らしが多くなるので、区営住宅のようなものが増えて欲しい。
いきいき	救護所の充実も大切だが、自宅避難、救護所に行けない人達、遠い人達への配慮も強くしてほしい
いきいき	飲み水の確保、寝る場所（勿論 毛布、暖房）
いきいき	区民の話を聞いてほしい
いきいき	全ての方が復興の支援を受けられること。その連絡や情報発信をしっかりとお願いしたい。
いきいき	高齢者の生命の優先
いきいき	障害者や独居老人
いきいき	全ての人々の希望を叶えることは不可能です。少しでも早く復興するためにも、このように事前に区の姿勢・方針を示し、合意を得ていくことはとても重要と考えます
いきいき	地域の団結
いきいき	上記の内容があれば特に思いつきません
いきいき	第一にインフラの回復、廃棄物の処理
障害者団体	子供や障害者、高齢者など、弱者の声を聞く
障害者団体	区の他部署（例えば保健福祉部）との連携をより図ってください。 障害当事者、家族の声も大切にしてください。
障害者団体	ライフラインの復旧や環境整備は当然のこと、気持ちに寄り添った、気持ちのケアについての計画も施策に入れること
障害者団体	一般区民の日々の生活の安定性、平穏性、安全性に留意した穏やかな日常生活の復活・再興・再改を望みます
障害者団体	時間の問題。
障害者団体	子どもたちの意見を取り入れること。移動ができなくても、インターネットなどの通信が復旧していれば世の中を動かせる。
障害者団体	病気の人々の薬は手に入るのか？寒さ暑さ問題。理解しているつもりでも、まだ他人事。区民への説明の場があったら良い。
障害者団体	一人暮らしの人、障害のある人のサポートが出来る人材を増やしておくこと。
障害者団体	行政が行おうとしている事のアナウンス。現状の報告、見直しなど。
保護者	自分だけではなく、お互い助け合うこと
保護者	まちづくりが新しく改善されるのも良い事ですが、人がつくる街なので、暮らす人達の気持ちが置き去りにされないようなプラン、進め方が大事にされて欲しいです。
保護者	住民、関係者みんなが、お互いを尊重し、歩み寄ることが大切だと思います。
商店会	問4での答のように、復興を進めるためにはリーダーが必要です。若い人を組織に入れ、災害時や復興時に行政と共に役に立つ人材を育てる。
商店会	地域に必要な復興を引っ張る行動力

問8 / 9. 問5で選んだもの以外にも、復興の進め方において大切だと思うことがありましたら、教えてください。(任意回答・自由記述)

※ 依頼先団体等の個別設問の数に応じて、本設問は問8または問9となります。

回答者属性	回答内容
町会	杉並区だけでは限界があると思うので、都や国でランドデザインを描き今のうちから示すべきだと思います。
町会	事前復興のコンセプトが難しく、なかなか理解ができない。従ってそもそも復興とは何か、を十分に議論して建設的かつ独創性のある街づくりが大切と思う。
町会	現在進行中の都市計画を明らかにして、震災後のありたい姿を描く
町会	未来へ求められる震災に強い街づくり 緊急車両がしっかりと入って行ける街づくり それぞれの街にはそれぞれの特色があるのでそれを活かした街づくり
町会	・百貨店やホームセンターの杉並区への呼び込み。 ・道路の再整備。(上記、問6でも書いたが、必須事項。) ・電柱の地中化。
町会	名古屋市等の戦後の復興などの事例から、災害の負を活かして区全体、近隣自治体と連携した総合的な復興計画の策定
町会	出ません！
町会	行政まかせにしない！！住民がまとまって進める。元の状態で戻ってこれるまちづくりを！！
町会	歩道を広くして、そこにテラス等がずっと続き、散歩に疲れたらコーヒーを飲める街並み
町会	杉並区のLINEなどのSNSを通じてお知らせやアンケートを行い、より多くの意見を集めてはどうか？抽選などを合わせて集計数を増やし、事業の取り組みを周知してもらえると良さそう。
町会	多分、発災直後は、目の前の混乱に対し、その場その場の対応しか出来ないだろうが、それでも常に「正常化」した時の「町の姿、形」を持っているべきだろう。つまり、目の前の対応に追われていても、常にその後の姿をイメージしながら、行動していくべきだろう。難しいとは思いますが…
町会	東北の被災地に昨年行きましたが、土盛した住宅用地や道路、堤防などインフラを立派に作り替えても元の住民があまり戻ってきていませんでした。復興が早くないと避難先で定住してしまいます。戻って働けるところを増やしながら早期に復興することが大事です。
町会	平素の町会員の顔つなぎ
町会	日頃から防災訓練など良くやっていますので、とにかくご近所さんの顔を覚えて笑顔であいさつを心がけています
町会	東日本大震災や阪神大震災、糸魚川大火などから、どのように復興が行われているか具体例を多く示してアイデアを募ること
町会	東京杉並に限るが、適度な規模であり、行政主導の強引なまちづくりには反対する。一日も早く、インフラの回復をすべき。その前提としてインフラの停止しない「まちづくり」を希望する、
町会	まちづくりにあたっては、被災された人々が再び住み慣れたまちに戻って来られるよう、一日も早く平穏な生活を取り戻せるようにすることが何よりも肝要です
町会	大災害が起きた地域での具体的事例について、講演していただければと思います
町会	耐震型住宅の義務化を進めると同時に、火災への対策を講じる。都市化をする。
町会	町会や学校主導で避難訓練を呼び掛けても、あまり人数が集まらない。区役所がもっと積極的に関わると良いと思う。
町会	特にありません。
町会	町の復興には公共施設の建物は重要な役割を担う設備となるので避難所としての機能をより充実させていただきたい
町会	各種ボランティア活動へのポイントシール等は上限を減らさないでほしい。参加者がやる気をなくしてしまうから。
町会	都市計画道路、狭隘道路、不燃化まちづくり、公園広場の計画的整備促進は防災事業そのもの。これこそ事前復興事業！【問7に自由記述あり】区が言うところの「聞きたい」のはむしろ地域住民の方。問6で答えた「区の姿勢」がみられるなら聞いてみたいが無ければ不参加
町会	初期消火対策
町会	3.11の時も地方にいて被災の経験がないので具体的な意見やアイデアが出ない
町会	災害危険度の高い地区での区画整理を含めた道路整備。
町会	都市の復興が本当に考えていられるか、そこを伺いたく
町会	特にありません。
町会	火災の危険がある地域や空き家になっている住居をどうするのか。
町会	小さい区域の話合いから、
町会	被災対策については、自助が原則であることを常時発信してほしい。救援所に来るのは「お客さん」ではない。

町会	事前復興まちづくりは、災害が起きてから対応するのではなく、平時から「もしもの時」に備えてまちの将来像を共有しておく重要な取り組みだと考えます。被災後は時間的・精神的な余裕がない中で判断を迫られるため、事前に基本方針や優先順位を話し合い、合意形成を進めておくことが、円滑で納得感のある復興につながります。そのためには、行政だけでなく、地域住民、町会、医療・福祉関係者、学校、企業など多様な主体が参加する継続的な対話の場を設けることが大切です。避難所運営のあり方、要配慮者支援、医療・福祉機能の確保、ライフライン復旧の優先順位などについて、平時から具体的な想定を共有しておく必要があります。また、都市の復興においては、単に元に戻す「復旧」ではなく、より安全で暮らしやすいまちへと発展させる「創造的復興」を目指すべきです。危険箇所の解消や道路環境の改善、公共施設の適正配置、バリアフリー化など、平時からの課題を解決する機会として捉える視点が重要だと考えます。さらに、復興を支える基盤として、正確で迅速な情報発信の仕組みづくりが不可欠です。住民が必要な支援制度や手続きを迷わず利用できるよう、わかりやすい広報と相談体制の整備を進めてほしいと思います。その一環として、町会や地域団体が活用する情報発信ツールへの支援も重要です。例えば、町会公式 LINE やメール配信システムなどの運用費用に対する助成制度を設けることで、災害時における地域内の迅速な情報共有と安否確認が可能となり、復興の初動を大きく支えることができます。加えて、ハード面の整備だけでなく、日頃からの地域コミュニティのつながりを守ることも欠かせません。顔の見える関係づくりを支援することが、災害時の助け合いと早期復興の原動力になると考えます。事前復興まちづくりは、災害に強いまちをつくと同時に、日常の暮らしをより良くする取り組みでもあります。住民の声を丁寧に反映しながら、安心して住み続けられる持続可能なまちづくりを進めていただくことを期待します。
町会	住民同士の協力しあえる地盤を作る
町会	・都市やまちは一人ひとりの人間から成り立っています ・復興に当たっては一人ひとりが震災前の生活が送れるべく支援し、その上で各事業者の事業成立の支援を行うべきと考えます（杉並区は主に住宅地であり、住民の生活支援が最優先です）
いきいき	区民がどの程度の災害備蓄品（水、食糧、エネルギー、トイレなど）を備えているかの調査と、その調査に基づく区で用意できる備蓄量または用意しなければならぬ備蓄量の検討が必要だと思います
いきいき	交差点の車と歩行者との完全分離の信号の設置、街路樹の増植、緑の増加、道路に休憩所、ベンチの設置
いきいき	老人クラブである当会では 日頃、地域のボランティア活動を通して、独居老人の安否確認や支え合い等、地域での防犯パトロールや地域の公園や緑道（遊歩道）の清掃や花壇の花植え等、地道な活動を 17 年間継続しており地域の老人クラブの仲間同士の絆が深まっている。
いきいき	空家の情報収集と、早期の処分により公共の土地として道路や公共施設への転用をしやすいすること。
いきいき	1日でも早い復興に取り組む。業者を確保する。
いきいき	都市大学のようなものを設置して、年齢に関係なく意見・アイデア等を定期的に意見交換する。また、現場調査して実態を把握する。
いきいき	年配者はライン・メールでは分かりづらい為、手紙や広報紙が良い
いきいき	道を広げる、少なくとも4m以下はなくす。みどりを増やす。
いきいき	バリアフリー、買物、病院の確保
いきいき	都市生活の平等性。弱者への保護。
いきいき	今のところ思いつきません
いきいき	道路の幅を車と歩道を分ける。特に電柱の位置が歩道を狭くしている。改善必要。
いきいき	①一日でも早い復興、②情報の共有化
障害者団体	いろいろな立場の人と行政が一緒になって、復興チームを作る
障害者団体	新たな都市計画を作るのではなく震災前の状態、そのままの状態でも復興して欲しい。専門家と称する人達の復興会議・意見はやりすぎ。不幸な人、不運な人たちの現状・原状を無視して進められてしまいます
障害者団体	日常生活の中で、「今、この時から、より速やかに復興がなされる対応！」という意識。区民で共有感を育てるイベント企画等。「被災時訓練、そして復興訓練へと、繋がろう??」
障害者団体	すでに、後期高齢者なので、迷惑にならずに手伝える事があるか、どうか。
障害者団体	ライフラインの復旧は何をするにも重要と思います。家庭でできることの一つに太陽光発電がありますが、初期費用が高くなかなか導入が難しいです。江戸川区では、初期費用ゼロで家庭に設置、割安な料金を支払う事業を始めるとニュースで知りました。同じような事業を杉並区でも検討して欲しいです。
障害者団体	できるだけ、高齢者になる前の世代や子どもの意見と動き方を優先する。いま高齢ではなくても、いずれ高齢者になるのだから。
障害者団体	障害者団体連合会にアンケートを取ってください、ありがとうございます
障害者団体	少子高齢化がすすむ現在、中高生を中心に意識を高めていく教育をしていく
保護者	緑や公園 夜になっても明るい道など子供の登下校や帰り道が安全になるような街作りをしてほしい
保護者	日頃からの防災対策、事前訓練は大切だと思います。「自助、共助、公助」をモットーに平時からの準備と、柔軟な計画をコミュニティと連携を取りながら区民にマニュアル等を配ると良いのかなと思います。
保護者	災害からの復興は、町の課題を解決するチャンス、という前向きな側面があると思います。住民みんなで、ポジティブな面にも目を向けながら前向きな検討ができるとよいと思います。

保護者	<p>事前に考えておくという観点が無かったので、たまたま見つけた事で自身が考えることが出来、良かったと思います。復興が必要な災害が起こらない事を願いますが、子ども達にも一緒に考える機会があれば、自分が生きていく場所を創るメンバーとしての意識が持てるのは素晴らしい事です。</p>
保護者	<p>子供たちや、次にこの街を好きになってくれる人たちを含めた次世代に、私たちの大好きな街を、より良い形で残していくこと、引き継いでいくことが、街を愛す者の責任だと思う。立場は様々ですが、街を愛す気持ちはみんな同じはず。お互いを尊重して、立場を超えて歩み寄ることが大切。もしも復興が必要となった時は、周り比べて被害が大きかった、ということなのでしょう。それは、地域に何かしら潜在的な課題があったということ。早く元のように暮らしたいですが、そのような状態のまま元通りにすることは望みません。災害で大切な街を失うのは悲しいことです。だからこそ、現実から目を逸らすことなく、どうしたらもっと良い街にできるのか、みんなで考えていきたい。その過程で、痛みを伴うこともあると思う。しかし、街を次の世代に引き継ぐには、みんなで痛みも分かち合い、乗り越えていくことが必要。</p>
保護者	<p>まちのみどりを増やすような取り組みをして欲しい</p>
商店会	<p>都市の復興で重要になるのが商店街の復興である。しかし商店街の場合、土地と建物とテナントの所有者が異なるケースが多く、再建するのは容易ではない。又、境界線の確認など専門的な作業も必要となる。土地境界を復元できる基準点や、それぞれの所有者名簿など、いざという時の備えを充実させる。これは行政まかせではなく、商店会としてできるだけことは自前でやるようにする。地元のことは地元に住んでいる人間が一番よくわかっている訳で、特に商店会長は責任がある。又、火災をまぬがれた商店街は地域の食糧庫となる。在庫食材だけでも相当数になる。</p>
商店会	<p>過去の復興を基本によりスピーディーな復興</p>